

私たちは、京阪グループ経営理念「京阪グループは、人の暮らしに夢と希望と信頼のネットワークを築いて、快適な生活環境を創造し、社会に貢献します」を掲げ、この理念を根幹に鉄道事業・不動産事業をはじめとする生活サービスを提供しています。CSRに関しましては、鉄道事業におけるさらなる安全性の確保と地域社会の要請に応えることが私たちの果たすべき社会的責任の基軸テーマと認識しています。

京阪グループでは、市場の縮小や経営環境悪化にも耐え抜き、将来にわたって発展していくための打ち手を講ずるため、「京阪グループ中期経営計画」を策定、発表しました。2012年度から2014年度を対象期間とする今回の計画では、基本方針を“次の100年のために「強靱な京阪」の礎を築く”とし、これから始まる「鉄道復権」という事業機会を見据えて経営改革諸施策の遂行にチャレンジします。

「安全・安心」に向けて備えを怠らない

100年を超える京阪グループの礎になっているのは、「安全」の確保とそれがもたらす「安心」の提供です。安全・安心への真摯な姿勢と努力の継続は、長年お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまからいただいていた信頼そのものであり、京阪ブランドの中核として、我々が守り続けていかなければならない大切なものです。

「安全」への取り組みとして、自然災害やテロなどに対し適切に対応できる能力の向上を目的とした総合防災訓練を毎年実施していますが、昨年の中東大震災の教訓も受けとめて非常災害時対応の見直しを早急に進めています。この報告書でも掲載していますが、平成24年2月には中之島駅などで大地震ならびに津波襲来を想定した総合事故復旧訓練を実施し、列車内・駅構内のお客さまを地上の安全な場所に避難誘導する手順を確認しました。また、京阪グループの大阪水上バスと連携し、鉄道網が機能しなくなった場合には、大阪市内の帰宅困難者を船舶で淀川上流の枚方市方面に輸送する態勢を準備しています。

人と地球にやさしい鉄道を目指して

エネルギー消費の面から環境課題を見た場合、最大の環境負荷である鉄道電力の削減が当社にとって最も効果の大きな取り組みになります。そのため当社でも省エネルギー車両の導入を鋭意進めており、最新の13000系車両では、車体強度の向上などによる安全性向上を図りつつ、エネルギー面では被代替車両(2600系)との比較で、約35%の電力量を削減しています。一方、今後も引き続き厳しい電力需給状況が続くと予想されることから、駅コンコース照明の減灯などの取り組みやオフィスにおける空調・照明

関係でも節電の取り組みを進めています。

また、ライフスタイルの多様化や高齢化がさらに進展するこれからの社会では、都市輸送インフラとしての鉄道の役割は今まで以上に重要になるものと考えており、鉄道をご利用いただく高齢者の増加、ハンディキャップを負った方々の社会参加などに対応した施設のバリアフリー化や公共交通機関の利用促進施策を推進します。

地域社会への持続的な貢献

「安全・安心」を守り続けるとともに、時代に対応し、変化を恐れず「チャレンジ」する勇気も必要です。地域社会に対する社会的責任を果たすためにも京阪エリアの肥沃化と魅力向上につながる新規事業を精力的に推進します。介護サービス施設の新規整備を推進することによる高齢者生活支援事業、「シニア世代の豊かなセカンドライフ」と「子育て世代の居住促進」をマッチングさせる移住・住みかえ支援事業、子育てしやすい京阪沿線を創造する子育て支援事業などを沿線でお住まいの方々のライフステージに合わせたビジネスとして今後も展開していきます。

「熱き心」を次世代へ

昨年11月に、当社の設立委員長であった洪澤榮一翁の書簡が発見されました。鉄道敷設の申請がなかなか本免許まで至らないという渦中であって、発起人の一人である富永冬樹氏へ宛てた書簡です。書面から伝わる洪澤榮一翁の鉄道建設に対する熱意と気迫に、100年のときを超えて勇気づけられると同時に、この「熱き心」で創設された当社を次世代へ繋いでいく責任を感じました。先人の思いに恥じないよう、次の100年に向けて「強靱な京阪」の礎を築きたいと思えます。